

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 9 No 05

9 4 号

平成13年 5月 1日

かわむらこどもクリニック022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

夜間休日診療

院 長

今回は夜間診療しなくなった理由についてのメールを頂きました。この件については他のお母さん達にも、様々な思いがあるかもしれません。返信したメールを中心に、記事にしてみました。

夜間診療をしなくなった理由、いくつかあります。まず第一の理由は忙しくなってしまったことです。小児科医会や保険医協会の理事や医師会の委員などの役職があり、平均すると週に2~3回は会議や勉強会のために留守をしています。また御承知のようにインターネットの医療相談の数も増え毎月数十時間を費やさなければなりません。医療相談は平均で月100通をこえ、2月にはなんと180通にもなりました。また院内報の発行、お母さんクラブの準備などで、自分の時間がほとんどないのが現実です。この連休中も学会の準備のため、毎日院長室で缶詰状態です。また日中の診療も忙しく、毎日大変な思いをしていることは御承知の通りです。小生も今年50歳です。体力的にも少しづつ落ちて来ています。しかし日中100人以上（多い時には200人以上）の患者さんを捌き、夜は夜で嫌々ながら会議や医療相談で自分の時間を奪われ家内との会話も少なくなり、テレビを見る時間もなく、唯一の安らぎが昼休みの午睡。このままの忙しさの中で年をとっていく、そんな不安が頭をかすめることもあるのです。

となれば、そんなこと止めて患者さんを診るのが正しいと思う方もいるでしょう。しかし育児支援には様々な方法があり、また責任上続けなければならないことも事実です。仙台は無医村ではなく、夜間の診療所もあれば休日でも小児科を診てくれるところもあります。もちろん小生も、北部診療所や在宅休日当番を担当しています。当番を小児科医全体で負担することによって、他の先生達が休めるようなシステムが運用されているのです。

親御さんが期待する気持ちもわかりますが、医師も人間です。夜間休日と言うことになれば、一年中休みなく働け

と言うことになるところかも知れません。翌日の診療のことも考えなければならないし、仕事も貯まってしまいます。国分町で飲



み歩くこともなく、お正月の御盆以外には休みがとれません。先日骨折して入院したのですが、患者さんのことが心配で早めに退院して来ました。それが悪かったのか何回も吐きながら診療していましたが、我慢が出来ず午後休診としてしまいました。病気なのに働く、こんな気持ちはわからないかも知れません。しかし心配の投書やメール、そしてお見舞いまでいただきました。その中には「いつも忙しいので、この際骨休みして下さい」と言うものもありました。そんなお母さん達に理解されて支えられていると、安心しました。

以前は夜間もできる限り診療していました。時々急病診療所は遠いから、待ち時間が長いからという理由だけで受診することもありました。言いたくはありませんが、自院での夜間診療で様々な嫌な思いを経験しています。現在は夜間や休日に心配な患者さんには、名刺に書いた簡単な紹介状を持たせています。休日の場合は遠くても小児科の医師にかかるように、説明しています。また患者さんの専用のメールアドレスを準備して、患者さんの質問にも答えるようにしています。これはほとんど毎晩、目を通しています。

夜間や休日の診療をしなくなったと言うことは、止むを得ずということなのです。この問題を解決するのは、夜間も休日もを診てくれる先生を探すしかないでしょう。昔と違って夜間も休日も診てくれる先生は珍しくなって来ました。そして探し当てたなら遠くとも、信頼して通うことが大切でしょう。「夜間診療しない」のは医師のわがままでしょう。しかし「医師は夜間診療をしなければならない」と言うのも患者さんのわがまなのかも知れません。この基本は価値観の違いなのです。小生は一人のお母さんのためではなく、なるべく多くのお母さん達のために働いているつもりです。

仙台は夜間診療所が2ヶ所もあります。また休日はその2ヶ所に加えて、小児科医の在宅当番もあるのです。確かに夜間診療所に対する不満が多いことも承知しています。あくまでも一時的な利用なのです。上手に利用する方法を考えてみてください。

5月のお知らせ
栄養・育児相談
毎週水曜日 13:30~
栄養士担当 参加無料

患者さん専用アドレス patient@kodomo-clinic.or.jp

読者の広場

先月もメールを含め、たくさんの投書やお見舞いを頂きました。

最近ではメールの紹介がほとんどでしたので、今回は投書箱に頂いたものを紹介します。青葉区の近江さんから「いつもお世話になっております。近江佑亮の母です。先程、クリニックNEWSを読ませて頂き、3月からずっと気になっていた先生の足のことを知りました。先日佑亮を診察して頂いた時は、診療中なので、お声をかけるのもどうかと思い、そのまま帰ってしまったのですが、ずっと気になって友人から先生骨折したらしいよと聞いていましたがそんなに大変だったなんて…。私も3～4年前とてもひどいねんざしたことがあるので パレーボール中 読んでいるうちにあの痛みを思い出してしまいました。その時私も若いつもりで、準備体操をきちんとしなかったのが原因でした。今回のことで、先生の足の痛みと心の痛みは、みんなが想像している以上に大変だったかもしれませんね。どうぞお大事になさって下さい。メールや投書以外にも、先生のこと心配している人たちがたくさんいると思いますので…。」を頂きました。また青葉区の藤原さんから、「先生。おケガの具合は、いかがですか？。今日病院に来て、とてもびっくりとショックを受けました。それは先生が頼りだからです。一日も早く、ケガが治りますように。いつもありがとうございます。このようなメモ帳で申し訳ございません。乱筆乱文にて、失礼いたします。」も頂いています。他に青葉区の阿部、武田、龍田、羽場さん、宮城野区の伊藤、高橋さん、泉区の佐藤、成田、堀越、松山さんからはメールでのお見舞い、青葉区の横山さんからはお見舞いを頂きました。ここで改めて、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

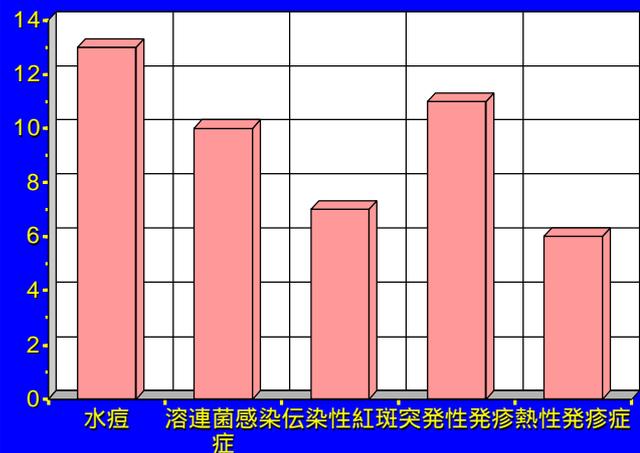
別な件で宮城野区の鈴木さんから投書をいただきました。「いつもお世話になってます。待ち合い室のテレビを上の本の部分に上げられないでしょうか。テレビの前で遊んでいる子が多くビデオが見えません。」。これについては以前も頂いて回答はしてあります。待合室を見てわかるように、わざわざ壁を引っ込ませて下に置いてあるのです。地震などの際の安全性を考えたものです。了承ください。

一面記事のきっかけは、親御さんからのメールによるものです。こちらからの返事に対して、納得した旨のメールを頂きましたので紹介します。「初めてのメールで、ぶしつけな質問をしてしまったにもかかわらず、こんなに早く、またこんなに丁寧に返信をいただき、少々びっくりしています。ありがとうございました。夜間、休日に診療ができないのは、止むを得ず」という先生の言葉を聞いて安心しました。先生が普通の医者の方の三人分働いているのは、よく知っています。しかも、全国から来るメールに一件一件こんなにも丁寧に、関わっていたら時間がいくらあっても足りないですよ。ね。(しかも無報酬で)分かっていながら、「診てあげたくても、診てあげられない」という気持ち確かめたくて質問してしまったのかもしれません。忙しいにお手間をお掛けして申し訳ありませんでした。これも余計な事ですが、はやく息子さんか誰かもう一人のお医者さんと一緒にやっていけるようになるといいですね。これからも過労とケガにはくれぐれもお気を付けてください。ちょっと、くだらない話ですが、近所の奥様方や市内のメル友と話していると先生の話になる時があります。もちろん先生だけではなく、先生や先生などいろいろと話しているわけですが、今回の内容も広く伝えていいでしょうか…。いいですよ！(笑)」。正直言って、夜間の診療しないということは多少後ろめたい気もしていました。このメールのおかげで、少し気が楽になりました。ありがとうございました。この件広めても構いません。先生達の話が出ていって、どんなことが話題になっているかやはり気になります。

4月前半は患者さんの数も比較的少なく、落ち着いた感じでした水痘がまた増加傾向で、溶連菌感染症も目立っています。中旬からは高熱が続く、インフルエンザ様疾患が目立っています。またインフルエンザと異なる高熱の風邪(肺炎や気管支炎)も目立ってきました。季節の変わり目ということもあり、喘息も出てきています。



4月の感染症の集計



臨時休診のお知らせ

5月18日(金)～20日(日)日本小児科学会が、仙台で開催されます。学会とシンポジストとしての参加のため

18日(金)午後

19日(土)全日

休診となります

日本小児科学会は小児科の学会の最も大きなもので、シンポジストに選ばれたことはとても光栄なことです。御迷惑をおかけしますが、何とぞ御協力と御理解をお願いいたします。

編集後記

このGWはいかがだったでしょうか。不自由な足と学会の準備のため、ほとんどこもりぎりでした。こんなにGWが恨めしく思ったことはありません。学会の準備で毎日大変です。揚げ句にまた皆さんに迷惑をかけてしまう。ストレスの悪循環から抜けられない、今日この頃です。



K's clinic